

第9回学会報告記 (LINK-Asia Pacific2015)

LINC-Asia Pacific が香港で 3 月 9 日から 11 日に開催されました。

当院からは飯田副部長と白記が参加致しました。

1 会場へのアクセス、学会会場

関西国際空港から香港まで直行便で約 4 時間でした。香港中心からは離れた所に空港、学会会場があります。空港-学会会場をつなぐ電車は 10 分ごとに運行されており便利でした。タクシーは安いですが、運転は荒いです。高速では平均 130km/h は超えていました。

2 学会発表

飯田副部長

コメンテーター、演者として多数の役割をこなされていました。虚血性足壊疽に関してアジアの中でも中心的役割を担われています。

白記

5 分間の発表の機会を頂きました。英語での発表に緊張しましたが、準備の甲斐あり上手く発表することができました。

3 学会聴講

カテーテルライブでは A. Schmidt Dr. の手技が際立っていました。容易に distal puncture を駆使し、閉塞病変を通してというのが印象的でした。また本邦で利用できる薬物溶出性ステント Zilver PTX のサムホイール型デリバリーシステムが初めて公開され、目を閉じても安全に扱えますとジョーク混じりのコメントがありました。

浅大腿動脈領域では薬物塗布性バルーン IN.PACT の非常により成績が報告されており、今後日本での一般使用が待たれます。興味深い治療法として意図的に膝窩動脈、膝窩静脈にトンネルをつくり、膝窩静脈以遠のベンをすべてカットしカテーテルでバイパスを作る手術が報告されていました。自家静脈を用いた血行再建、開存性が現行バイパス術と同様であれば血管内治療の立場からも夢のような治療であると感じました。



4 学会後活動

香港空港にある crystal jade という中華料理店を 2 回利用しました。常にほぼ満席で繁盛していました。小籠包、担々麺といった日本で馴染みある料理から、辛口料理まで充実した品揃えでした。

欧米の食事より香港の食事は口に合います。



5 まとめ

日本国内ではまだ認可されていないデバイスの成績、また海外 Dr. のカテーテル手技は国内学会では知り得ない情報であり、海外学会に参加することの意味合いを感じました。